

ティーチング・ステートメント

所属 工学部建築学科
名前 福田 菜々
作成日 2024年2月26日

【責任】

建築学科に所属し建築計画の領域を中心とした教育・研究活動を行なっている。主たる教育活動は建築計画系の基礎科目（建築基礎製図・基礎図形科学・建築計画Ⅰ・建築設計演習Ⅰなど）の担当のほか、国家試験対策科目（建築総合演習ⅠおよびⅡ）を担当している。その他、ゼミ生の研究および就職支援を行なっている。また、計画系ゼミ合同で、ていね夏あかりの行事に参加し、地域の小学生と提灯制作を介した地域交流の活動を行なっている。

【理念】

人と人とのつながりで成り立っている社会で、一定の責任を持って行動し生活するためには、人としての基本的な常識があり、正しいマナーを心得ている必要がある。本学の学生には、卒業後は社会の一員として何事に対しても努力を惜しまず積極的に取り組み、責任感のある仕事をこなせる人材となってもらいたい。時間や期日の厳守は社会人としての基本であり、他者との信頼を築く上で重要である。そのためにも、タイムマネジメントを意識した授業を展開している。また、一人ひとりの成果が最終的に企業の利益や成功につながる社会では、毎日のたゆまない努力が不可欠であり、他者と良好な関係を築き、物事を円滑に進めるためにもコミュニケーション力が求められる。大学では、こうした基本的な事項を教員自らが示すべきであると考えている。

【方針・方法】

上記の理念を実現するためには大学では、「タイムマネジメントを意識する」「時間を有効活用する」「努力することの大切さを体験させる」「コミュニケーションを通して知見を広げる」といった方針に基づき、教育を行っている。

方針1：「タイムマネジメントを意識する」

方法1：授業では、開始・終了時間を厳守している。

方法2：演習の授業では、締め切りに間に合う的確なスケジュールを随時提示しながら、タイムマネジメント能力を養えるよう授業を進めている。

方針2：「時間の有効活用する」

方法1：演習の授業では、授業を延長することなく、時間内で全ての学生と必ず面談できるよう分刻みで調整している。

方法2：学生には授業時間を有効に活用して課題制作に取り組むよう指導し、教員との面談を待つだけの無駄な時間とにならないよう参考資料・図書を準備し持参している。

方針3：「努力することの大切さを体験させる」

方法1：演習の授業では、一つの課題を完成させることを通して努力の大切さを体験させ、その効果・意味を自分のものにする。

方法2：製図の授業では、努力することにより、キレイで正確な図面が素早く描けるようになることを体感させる。

方針4：「コミュニケーションを通して知見を広げる」

方法1：授業では、学生がお互いに説明したり、ディスカッション、プレゼンテーションを行ったりする機会を多く設けている。他者とのコミュニケーションを通して、自分とは異なる視点や見解があることを学び、知識の幅が広がることを実感させる。具体的には、ソロワークとして一人で取り組める課題を課したのち、ディスカッションの時間を設けることで、それぞれが学んだ知識を他者と共有し、また他者の視点や意見を理解する機会となるよう授業を展開している。

【成果・評価】

- ・1年生の製図授業における最終課題の完成度が向上した（図面を書く上で、線の違い・使い分けができるようになった）。
- ・1年生の基礎科目のカリキュラムの中に模型制作の時間を組み入れたことで、2年目以降の演習の授業でも学生がスムーズに模型を作れるようになった。
- ・ていね夏あかり作業の一つである小学校での提灯制作指導においては、小学校の担当教諭から、本学学生がとても頼りになると後日伝えられた。

【目標】

短期目標

- ・卒業後1年以内の学生の1級建築士合格者を毎年1名以上とする。（2024年以降）

長期目標

- ・授業時間以外でも積極的に学生と話す機会を設け、学生に寄り添った指導をする。
- ・所属学会の勉強会や研究会に定期的に参加し、学生・教員・社会人が共に学ぶ機会を設ける。